

ひかりがあるところにはジユウリ
ヨクがある。

エイゾウ

はじめに

はじめは、ニチジヨウテキなことをかいていたが、いまや、エルガク（ブツリガクっぽい）のはなしがおおい。かきはじめてゴネンでそういうヘンカとあいなつた。わたしは、コウコウでリケイにすすんだわけではないが（ケイサンがおそかつた）、かんがえかたは、リケイにちかいかもしれない。あまりチシキがないから、ジユウにかんがえられている。それもよかつたとおもう。

つぎからは、（あまりにセンモンテキになるので、）わけてかこうかとおもうが、そんなにたくさんかけるかというモンダイがある。リケイのジブンも、ブンケイのジブンも、まぎれもなくジブンである。それなら、ベツにわかるヒツヨウはないかもしれない。なやましいが、いまのところそうおもっている。また、ベツに、エルガクのホンとケイザイガクのホンをだすつもりである。なにかいいドクシヨタイケンをなさつただければさいわいである。

ニセンジユウキユウネンジユウニガツニジユウニチ

エイゾウ

イチ

ひをたくと、チキユウジョウでのばあい、うえにむかってひがあがるだろう。なぜ、したでなくてうえにむかうか。タブン、チキユウのうちがわのほのおと、おなじむきをとるからだとおもう。チキユウのうちがわでは、タブン、ホウシヤジョウにひがついているだろう。

だが、あなたがたくひをしたのホウにむけたらどうなるか。ひのおおきさとたくものなどのつりあいが変わるくなければ、ロケットのようにとぶであろう。これはどういふことか。ジシヤクにエスキョク、エヌキョクがあるように、ひにも、キョクセイがあるのだとおもわれる。つまり、アンテイするたきかたと、ハンパツするたきかたがあるといふことだ。ハンパツをいかすと、ロケットのようなものができる。とりあえず、そういうつかいかたがあるろう。また、コウセイとそのまわりをまわっているワクセイがキヨリをたもつわけでもある。

ニ

「タイムイズマネー。」という。ジカンはおかねのようだ。ということだ。わたしにとつ

ても、そうかもしれない。ジュウブンにケントウしてから、なにかをはじめてもいいが、「おもいたったら、キチジツ。」ともいう。そういうキカイがあるときには、ほとんどケントウせずには、はじめたりする。たとえば、ほしいものがななわりびきでうっていたとする。ジュウブンケントウをすれば、まちがいはないだろうが、タブン、そのケツカがでるまえに、うりきれてしまうだろう。だから、ジュウブンにケントウするのは、ただしくないこともある。

ただ、ジョウホウはダイジである。あるケツテイをするとする。ジョウホウがあれば、そのケツテイをたすける。また、ヨソクされたジョウホウがあれば、ケツテイまでのヨユウができる。なにもジョウホウがないと、ウオウサオウするようだが、ジョウホウがあれば、おちついてハンダンができる。

そういうイミで、ジョウホウは、ヨユウをつくるものだともいえそうだ。「ヨユウ」ということは、「タイム」とおなじようなものである。「タイム」イズ「マネー」だから、おかねがかかるということでもある。

サン

なにかにひかりがあたると、なにかがみえる。それがみどりいろをしていると、みることができる。しかし、ひかりがあたらないと、みえない。よるをしっているひとなら、わかるだろう。しかし、そのものがひかるとはあまりいわれない。ジュースの缶に、ひかりをあてたら、ジュースの缶がきいろくひかったとは、あまりいわない。

もしかしたら、ひかりというデンキみたいなものがあたって、きいろいジュースの缶がひかったカノウセイがある。セイカツばめんでは、どちらでもよいだろうが、ガクモンとしては、このサはあるとおもわれる。

くろいものは、ひからない。つまり、このいろは、ひかりをあてても、ひかるハンノウをしない。だとしたら、くろいものは、ひかりのエネルギーをためられるかもしれない。ばあいによっては、ハツカするという。「ブラックホール」もやはり、そのうちハツカするのではないか。それなら、くろいものを、ひかりをためるのにつかえるのではとおもう。

よん

ギターずきのエークンがいたとする。このひとは、シヨウライテキになにをかうであろう

か。ゲンとかピックがうれそうだ。エレキギターだったら、アンプもかうかもしれない。

このように、ショウヒには、ドウセンがある。つまり、シュミから、ものへというつながりである。わたしはちいさいころ、めぐまれていたので、マンガとか、テレビゲームとか、ガツキとか、オンガクソフトというシュミがあった。しかし、かうばかりでは、おかねがへるイッポウである。テレビゲームはやらなくなったが、シイディはかったりする。マンガは、マンガでなくて、ホンをかうようになった。ガツキもかうことがある。

こういったシュミにおかねをつかうから、おかねがたまらない。もうすこし、シュミをけずるといいかもしれないが、いまのところできていない。こういうシュミだから、まちにでも、ホンヤにいたり、シイディにいたり、ガツキヤにいたりする。しかし、サイキンはあまりいかなかった。コンピュータネットワークハンバイがあるからである。そういうイミでは、フツウのみせは、ケイエイテキにきびしいのではとおもう。

ゴ

ガツキのエンソウカをイチニチやとうと、ナンマンエンかはかかるだろう。そのひとは、

ガツキにゴジュウマンエンぐらいかけているかもしれない。しかし、いまでは、ガツキをひいたおとをうっているので、ニマンエンあれば、そこそこのおとがならせる。つまり、ニマンエンぐらいでガツキのギジテキなエンソウカをやとえてしまうわけだ。

しかも、ニジカンだけではなく、ムセイゲンだ。オーケストラもイチニチやとつたら、ヒヤクマンエンはするだろうが、ヒヤクマンエンあれば、やはり、オーケストラのおとをあつめたソフトウエアがかえる。

そういうイミで、ガツキのエンソウカにはきびしいジダイかもしれない。オンガクガツコウにいつて、ゴヒヤクマンエンくらいかけて、ガツキにヒヤクマンエンかけたとしても、ニマンエンのおととシヨウブしなくてはいけない。サンビヤクバイすぐれていなければならぬといとなる。もしくは、サンビヤツカイしごとをするようだ。それはむずかしいだろう。だから、エンソウカをめざすひとは、へっていきそうだとえるだろう。

ロク

ニホンにはかつて、コウドケイザイセイチヨウキがあった。しかし、キュウジュウネンダ

イからは、レイセイチョウ、ないしは、テイセイチョウである。イッタイ、そのジキといま
とでなにがちがうのか。

ひとつは、「シヨク」がゆたかになったといえるだろう。わたしはこどものころ、キュウリ
をさんだサンドイッチをたべたし、かつばまきもたべた。パンをたべるにしたって、パタ
ーではなく、マーガリンだ。ジュースには、スウジュツパーセントのカジュウとサトウとチ
ヤクシヨクリヨウがはいっていた。それが、ナンマイものハムがはさまったサンドイッチ、
テツカマキ、バター、ホンモノのジュースとかわつてきている。

わたしのばあいだが、それだけシヨクがゆたかになった。ただそのブン、チヨキンがむず
かしくなるだろう。コウツウにしたって、いまはくるまをかうひとがおおいだろう。しかし、
わたしのおやじだつて、くるまは、かりるか、チュウコシヤにのつていた。

わたしのおやじはカイガイテンキンもしたサラリーマンである。そのおやじがシンシヤを
かわなかつたということは、テイセイチョウジダイのサラリーマンが、シンシヤをかえると
いうのにギモンをもつリユウにもなる。ホンライテキには、くるまはそうそうにかえないは
ずなのだ。

セイフは、ことあるごとにケイキタイサクをする。また、コクサイもハツコウする。そのし

はらいは、ジュウネンゴとかニジュウネンゴである。だから、ジュウネンゴ、ニジュウネンゴには、ニホンジンはピンボウになる。かりかえれば、やっぱりナンジュウネンゴに、しはらいをさきのぼしになる。ようするに、なぜ、いま、ニホンジンがくるまをかえるかという、そのしはらいがエンキされているからだともいえよう（イチオウかつただろうが）。

それだと、ナンネンゴかに、つけがのこる。すくなくとも、くるまのダイキンブン、ショウライつかえるおかねがへるだろう。つけをさきおくりにするということは、ショウライまがなくなるわけだから、そのブンチョコキンがヒツヨウだろう。だから、チョコキンをしたホウがいい。それはカクジツなのだ。いま、たのしむか、あとでクロウをしないかのセンタクだろう。

「バブル」は、カコのことのようにおもわれがちだが、まだバブルをやっているようにもおもう。コンドはギンコウでなく、コジンがこまる。ななジュウネンダイくらいのセイカツスイジュンだったら、ケイザイはイジできるとシサンした。いまのレベルはそうつづかないだろう。もつとタンジュンにいうと、えどジダイのセイカツをならえればいいだろう。

シチ

「ひかり」がひかるのか、「もの」がひかるのかというモンダイがある（●サン）。しろいおきものにひかりがあたると、しろくみえる。これはすでにわかっていることである。また、くらいところで、しろいおきものをみても、すがたはとらえられない。フツウはひかりが、しろいおきものをてらしているようにおもわれているだろうが、わたしは、ひかりというデシキのようなものが、おきものにあたつて、しろくハツコウしているとかんがえる。つまり、おきものは、てらされているわけではなく、ひかっているわけだ。

ひかりは、ひかっているというイミがあるだろうから、タイヨウからでたそれは、「ひかり」というより、「ひから（せている）」である。それでも、ひかりは、ひかっているというかもしれない。プリズムをとおすと、いろんないろがみえる。だから、ひかりはひかっているんだ。というかもしれない。しかし、それは、プリズムがあつてのいろである。テレビだつていろいろないろがでる。タブン、くろいいたに、いろんないろをうつしだすことがカノウなのではないか。「ひから」シダイでうつるいろがかわるとおもわれる。

なにかのオンドをひくくすると、コタイになる。ギヤクに、たかくすると、エキタイからキタイになる。ウチュウがひろがっているというのは、オンドがたかければ、キタイがおおくできて、ボウチヨウする。それでも、ボウチヨウのゲンカイはあるだろう。また、オンドがひくいところもあるだろうから、エキタイやコタイもあるはずである。

わたしは、ウチュウは、おおきなチキユウみたいなものだとかんがえている（●『ウ』ヒヤク
ななジュウニ、『ウ』ヒヤクよんジュウ、『ウ』サンジュウハチ、『ウ』ニジュウイチ、『ウ』よん、『ス』ヒヤクサンジュ
ウロク、『ス』ヒヤクニジュウロク、『ス』ゴジュウキユウ）。あとニヒヤクネンはやければ、おおがねもち
になったかもしれない。なんのことか。ウチュウのそとのホウにはネンリヨウがありそうな
のである。チキユウでは、それをそとがわからほってカクニンされている。セキユである。
まあ、チャレンジャーだからしかたがない。

キユウ

ときおり、わたしはジカンリヨウのはなしをしている（●『ウインドウはすべてエレクトリック』『イ
カ、『ウ』ヒヤクニジュウなな、ヒヤクよん、ロクジュウハチ、『ス』ペリアーをみつけた。』『イカ、『ス』よんジュウ

ニ、よんジュウイチ、ジュウキュウ、『オンガクイチエンのジダイ』『イカ、『オ』『ゴ、『よろこぶゲンシジン』『イカ、『よ』『ニジュウイチ。それだと、ダイタイカコにそこにいたというザヒョウにもどれば、「ジカンリョコウ」ではないかということだ。

しかし、コンカイはホントウのジカンリョコウができるかもしれない。いや、ジカンリョコウというか、デジエネレーション（タイホ）である。それは、どうやればできるか。エル（ウンドウ）イコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリョウ）である（●『ウ』ヒヤクニジュウキュウ、『よ』サンジュウニ、ニジュウハチ）。このダブリュエーをソウサする。つまり、ジカンをもどしたいブンをひやすのである。

チキュウをひやしてもいいし、ウチュウゼンタイをひやしてもいい。シキでは、ダブリュエーがマイナスになる。したがって、ウンドウもマイナスになる。エルイコールテイ（ジカン）（●『ウ』よんジュウ、『よ』サンジュウニ）だから、ジカンがギヤクにながれることになる。ウンドウのむきが変わるというわけだ。しかし、それをやってもおもしろくないだろう。たまに、ドウブツなどをこおらせてホカンするというはなしがある。そこからソセイさせるのはむずかしいらしいが、まあ、そういうはなしである。

ジユウ

よつつのコウセイにトウカンカクでかこまれたほしは、インリヨクがつりあつてうごかない。これをわたしは、「デッドロック」とよんでいる（●『ウ』ロックジユウキユウ、『ス』ヒヤクなな、『ス』ヒヤクよん、『ス』ニジユウ）。まわりのコウセイのインリヨクがつりあつてゐるから、ジ（ジユウリヨク）がレイのようになる。カンゼンなレイではないが、それを、「アクティブレイ」といおう。

とにかくレイっぽい。アンガイウチュウのなかのコウセイなり、ギンガのハイチはそうやつて、うまくつりあつてハイチされているのかもしれない。セイテキハイチである。もし、そういうつりあいが、まだとれていないとしたら、うごきがさかなはずである。ニンゲンもレキシのなかで、ハイチをそれぞれがまのあるようにしてきた。そういったアクティブレイのハイチのウチュウかもしれない。

ジユウイチ

ニホンはジシンののおおいくにである。ハチネンまえのトウホクのジシンのときには、キンキュウジョウホウがわたしのケイタイデンワにはいった。それもフダンとはちがうケイコクオンつきでだ。

うちはチメイテキナソンシヨウはなかったが、かべにひびがはいったり、タイルがわれたりした。それからというもの、そのキンキュウジョウホウのおとがこわくなった。シンリガクでいう、ジョウケンづけである。ビーというサインあって、いやなエーがハツセイするばあいは、ビーがこわくなるというはなしだ。

まあ、それはともかく、ジシンというのは、チカクのウインドウといわれている。つまり、エル(ウインドウ)であるわけだ。エルイコールイー(デンキ)である(●『ウ』よんジュウゴ)。

そのために、チカクのデンキをとらえられれば、ジシンはヨソクカノウとなる。

デンキなまがヨチできるという。やっぱりこれも、デンキである。そのギジュツをたかめたら、ヒガイはへるとおもう。もつとダイタンにやれば、ゆれがおこるというハドウのギヤクにそれとドウヨウのおおきさのハドウをおこして、ジシンをうちけすというホウホウもある。ジシンはシンゲンからエンジョウにそとへむかってひろがるようだ。これは、いけにいしをなげこんで、ハモンがひろがるのににている。このハモンをとめるのはむずかしい

とうか。タブン、ギャクにかわらからいしをとりだせば、ギャクホウコウのハモンができるだろう。それはどういうことかというところ、ジシンをチュウワするのは、リロンテキにはカノウということである。ただ、シンゲンから、なにかおおきいものを取りだすのは、ギジュツテキにむずかしい。そういうカダイはある。

ジュウニ

テレビキョクのうりあげがおちたなどということがある。テレビのキカイはニホンジンのいえにダイタイおかれているだろうが、ホウソウをみるひともいれば、みないひともいる。わたしもニュースとサッカーぐらいしかみない。そんなかんじだから、ガメンがおおきいホウがいいとおもわず、キョクリョクちいさいホウがいいとおもっている。キュウジュウネンダイからパソコンがフキュウはじめ、オンガクやドウガがみれるようになった。そのため、テレビよりも、パソコンでドウガをみるひともおおいだろうとおもう。サイキンでは、ケイタイデンワでみることもできるらしい。

もし、そうだとすると、テレビキョクのうりあげがおちることは、わからなくない。ドウ

ガトウコウサイトにも、テレビとおなじようにコウコクがはいる。そういうわけで、キョウソウになっているといえるだろう。このキョウソウはどっちががちそうなのか。

ハードウェアをくらべてみれば、テレビキョクが、ナンジュウ、ナンビヤクオクとするたてものをホユウし、ナンゼンニンもやとっているのにくらべ、ドウガトウコウサイトは、スウカシヨに、サーバーとなるコンピュータとオペレーターをもっているだけだろう。つまり、ヒョウが、ドウガトウコウサイトのホウがアットウテキにすくないだろう。これでキョウソウをつづけければ、いまのところ、ゴブゴブだとしても、シュウエキで、ドウガトウコウサイトにグンバイがあがる。

もし、かぶぬしのリエキをサイダイゲンにかんがえらるとするなら、ドウガトウコウサイトのホウがこのまれるだろう。しかし、コウキョウセイというかんがえかたもある。それをふくめて、テレビキョクがどれだけがんばれるかではないだろうか。タクサンセンタクシがあったホウが、シチョウシヤはゆたかだが、テレビキョクは「コウキョウセイ」をおもんじるにせよ、フクシでやっているわけではない。シュウエキがでなくなれば、テツタイということもかんがえられる。

ヒョウをへらすドリョクがフツウのカイケツサクかとおもうが、ニホンでは、なかなかや

りづらいだろう。だから、いつまでもつのかというところではないだろうか。

ジユウサン

ニホンジンは、ヤクハチジユウネンまえのセンソウのヒガイをたてなおすために、センゴ、トクにはたらいたという。わたしのおやじもそのひとりである。センチュウ、センゴに、あまりよいたべものがなかったとき。たまに、「ハングリーにはたらいた。」などという。まあ、そうだったんだろう。ケツカ、ケイザイセイチョウもキロクされている。バブルとよばれるハチジユウネンダイからキュウジユウネンダイシヨトウにいたるまで、それはつづいた。バブルのころから、フランスリヨウリだの、イタリアリヨウリだの、そういうのをたべるようなひとがでてきたという。わたしもどちらかというたべたホウだ。わたしのおふくろがつくるリヨウリは、わたしがおさないころから、そうかわっていないが、わたしのいえのちかくにインシヨクテンがサンケンふえた。それだけシヨクヒにおかねをかけるようになったということだろう。その、「ハングリー」がつづいたのは、ハチジユウネンダイまでなんだろうか。シヨクがよくなくて、キュウジユウネンダイにほぼセイチョウなしになっていまに

いたる。

シヨクたりて、ケイザイセイチヨウなしと、まあ、ヘイワなようだが、コクサイキョウソウなどをかかんがえると、それでいいのだろうかとおもう。センゴは、ほぼひとしく「ハングリー」だったが、いまは、「ハングリー」なひともしれば、もつとたべるというひともあるだろう。ヨウするに、「コセイ」だのとイチジキいわれたが、コジンセンなのだ。がんばりたいひとは、がんばるし、がんばらないひとは、がんばらない。そういうジダイのだとおもう。いまは、こどももすくなくなつて、ひとりですんでいくひともでてくる。だから、ヒヤクネンゴのためにがんばろうというのは、キョウツウのモクヒヨウとしてはむずかしい。がんばるひとも、キョウソウからおりるひとも、まあまあうまくいけばいいとおもう。

ジユウよん

もっているゆめをジツゲンするため、アルバイトをしてシホンキンをためて、しごとをやりだすというはなしは、わたしがジユウダイのころにきいていた。しかし、わたしのカンシンがあつたロックオンガクのばあい、アルバイトして、シホンキンをためて、しごと、エ

ンソウをしたというはなしはきかなかった。そうやって、まじめにミュージシャンになったひともあるだろうが、そういうはなしはしらなかつた。どちらかといえば、のみあるいてい
るみたいにおもつていた。

しかし、それはおおまちがいだろう。タブン、ヒツヨウなドウグであるガツキがコウガク
なために、なかなかシホンキンをためられなかつたのだろう。チホウをまわるとなれば、く
るまもヒツヨウだ。エンソウするバシヨ「ライブハウス」も、キヤクがすくなければ、ミュ
ージシャンのフタンとなる。そうやって、あげてみると、ミュージシャンとして、セイコウ
なり、しごととしてセイリツするようになるのはむずかしいとわかる。

わたしは、イジョウのことをリカイしていなかつたが、オンガクがすきだつた。しかし、
つきあいだなんだで、なかなかジブンでキョクをつくることができなかつた。それで、イチ
ジキオンガクをチュウダンした。そして、いまごろになって、またオンガクをやっている。

やってみるとわかるが、わたしのつくるロックオンガクは、そうられるほどではないし、
ロックオンにサンカゲツかかるし、つかれる。だから、いま、それはあまりつくるうとしてい
ない。かせげないしごとイコールただしくない。とかんがえるのだつたら、すぐにやめた
ホウがいいだろう。なにしろ、ジュウゴキョクきかせて、イチエンをもらうジダイだ(●『オ』

ヒヤクサンジュウハチ)。だから、イチジカンのあいだにジュツキヨクつくれると、シウエキが
できるかもしれないが、まず、そういうことはできない。

まあ、やってみて、そういうジョウキヨウがわかったから、そんなにちからをいれていな
い。シユミとしてできればいいのではとおもう。ただ、このさきのニホンにおとずれるであ
ろう、ただばたらきのジダイ(●『ウ』ゴジュウなな)をかんがえると、どうなのかとおもう。

でも、ガツキをかつているようじゃだめだろう。いまおもうと、コウコウのときに(オン
ガクをやるモクテキだとしても)、アルバイトして(おかねをためて、)ばあいによつては、
センモンガツコウ、ダイガクにいけばよかつたとおもう。おかねはつかいみちをかえられる
からだ。

ジュウゴ

わたしは、わたしのギジュツリヨクがヨーロッパにくらべて、ニヒヤクネンおくとおもうと
おもっている(●『ス』ヒヤクサン)。まえにもいったように、ニヒヤクネンはやかたら、セキ
ユをほりあてて、おおがねもちになつていただろう(●ハチ、『ウ』ヒヤクよんジュウ)。

そのおくれを、ニバイのはやさでおいかけると、ゲンジョウのスイジュンまでヒヤクネン。それからのシンポに、ゴジユウネン、ニジュウゴネン、ジュウニテンゴネンとかかり、ケツキヨク、おいつくまでにニヒヤクネンかかる。

このダンダンハンブンにしてケイサンするところがおもしろい。イツキにニヒヤクネンかかることをいえるひともいるだろうが、ジュンジョをおつてケイサンするとそうなる。これは、シャツキンのケイサンにもつかえらるとおもう。

ニヒヤクマンエンかりて、ニバイのはやさでかえしたら、などである。ニバイのはやさなら、キンリがとてつもなくたかくなければ、かえせるだろう。ところが、ニブンのイチのはやさだと、さきのようにケイサンして、キンリがないとしても、ようやくかえせるとなる（ヒヤク、ゴジユウ、ニジュウゴ、ジュウニテンゴと）。

なぜ、そのようにケイサンするか。それは、つぎのシュンカンに、べつものにおかねをつかっているカノウセイがあるからだ。だから、これがめやすとなる。つまり、たかいものをかうとしても、キュウリヨウのニバイにおさえなさいだ。だから、そうカンタンにくるまはかかえない。かうのだったら、チョキンをするようだろう。

これをまもらずに、キュウリヨウのサンバイのものをかうと、そのケイサンでは、ロクジ

ユウロクパーセントしかかえせない。つまりハタンだ。だから、それをしてはいけない。しかし、ニバイだとしても、マイカイにそれをする、やはりハタンする。だから、シュツピのルイケイをキュウリヨウのニバイにおさめるといいだろう。また、キュウリヨウのイチバイに、レイテンゴバイにおさめれば、チョキンもできるであろう。

ジュウロク

ニホンでは、よくくるまがみられる。それだけうれたということだ。しかし、それをもとがとれるくらいつかっているだろうか。ニヒヤクマンエンのくるまがあるとす。これに、ネンリヨウをおなじニヒヤクマンエンブンかえば、イチマンサンゼンリットルになる。イチリットルでサンジュツキロはしると、ヨンジュウマンキロメートルはしることになる。ただ、ヨンジュウマンキロメートルはしらせると、ヨンジュウマンキロメートルはしることになる。ユンでいえば、くるまをかうひとはダイタイソンをしているといえそう。つまり、このキジユンでいえば、くるまをかうひとはダイタイソンをしているといえそう。ようするに、くるまはシヨウヒザイということだ。イツシヨウかけてのるが、ケイザイテキといえるだろう。

ジユウシチ

ものをつくるのに、セツケイをすることがある。タブン、いまではセツケイズをかいてから、つくりはじめることがおおいだろう。タブン、セツケイズは、エンキンホウをつかつかくと、ゼンタイがわかりやすいだろう。しかし、セツケイズのないセイヒンもある。

それは、たとえば、トウゲイセイヒンである。ホンタイをつくって、えをいれる。そういうセイヒンもある。これを、セツケイズのないセイヒンとよぼう。こういったセイヒンはシヨクニンがつくっている。いまのフツウのひとはセツケイズをかいてから、セイヒンをつくるだろうが、シヨクニンは、セツケイズをかかずにセイヒンをつくる。こういうちがいはあるとおもう。

ジユウハチ

フツウのくには、ダイタイゼイキンをとる。ホウジンゼイやシヨトクゼイなどである。しかし、くがセイヒンをつくるカイシャのようだったらどうか。むしろ、うりあげから、ジ

ユウギョウインにキュウリヨウをはらうようだろう。ゼイキンのようなものはいらない。

くにごつくえをニコつくって、エーさんとビーさんにそれぞれゴヒヤクドルでうったら、くにごセンドルはいる。くにごニヒヤクドルぬいて、それをつくったエーさんとビーさんに、よんヒヤクドルずつしはらわれれば、まあまあうまくいっていることになる。

しかし、くにごのカンリコストのニヒヤクドルがつかわれれば、エーさんとビーさんがヒヤクドルずつまずしくなる。ただ、くにごにあるニヒヤクドルがうまくつかわれれば、イチジテキに、エーさんとビーさんがまずしくなっただけで、ケイザイはまわる。くにごそのかねで、シーさんにニヒヤクドルはらってヤサイをつくらせれば、またヒヤクログジュウドルをシーさんにはらってケイザイはまわる。

このレイでも、やはり、くにごゼイキンをとっているといえるだろうか。ニジュツパーセントをくにごあずかる。ほとんどジンケンヒだろうが、ゼイキンとよべなくもない。これで、うまくひとびとのほしいものと、つくるもののチョウセイができれば、これはカノウだろう。

ジユウキユウ

わたしがダイガクセイのところ、ガクヒをはらうためにアルバイトをしていた。あさゴハン
は、ハンバーガーだった。ベンリなバシヨにシヨウテンがつくられていたからだ。また、そ
れはトウジ、フケイキのせいもあってやすかった。いまかんがえると、それがなかったら、
シヨクバでのロウドウや、ダイガクでのガクシユウにシシヨウがでていたのではないかとお
もう。

ニホンジンは、さかなをよくたべるが、アンガイ、さかなをすばやくたべられるみせはす
くない。だから、ハンバーガーだったのだろう。えきには、たちぐいそばもあるが、そばで
は、あまりチヨウジカンはたらないきがする。タンパクシツがあるかないかというはなし
だ。

ニホンジンは、センゴ、ガツシユウコクのコむぎをユニユウして、パンなどをつくってた
べた。そのうち、ギユウニクもいれるようになった。これらをたべることがおおいひとは、
ジミントウタイシツ（●『アルクカラカンガエル』『イカ』『ア』ヒャクヨ）である。こめやさかななど
のニホンサンのシヨクザイをたべ、なおかつ、ガツシユウコクサンのシヨクザイもたべる。
ケツカ、からだのセイブンは、ニホンサンと、ガツシユウコクサンでコウセイされる。だか
ら、こういうひとは、ガツシユウコクのひとつとケンカできないであろう。それが、「ニチベイ

「ドウメイ」ということばにもあらわれている。それで、どうするのかというのが、コンゴとされるだろう。しかし、そのまえに、カンシャをわすれぬことである。

ニジュウ

ニホンのダイガクのジュンイがおちているという。ほかのくにをふくめたはなしである。それはわからぬわけではない。ニホンジンのノウリヨクがひくくなっているわけでもないだろう。しかし、ニホンジンがみつけたチケンがほかのくにとくらべて、すくなくなっているのだろう。つまり、なにがしたいのかというと、ガクモンをユニウばかりしているということである。

いまのニホンのシヨクリヨウのジキュウリツは、よんジュツパーセントという。それとおなじように、ガクモンのジキュウリツが、おちているのではないかとおもわれる。もつといえ、どれだけダイガクをユニウしているかである。ノウサンブツのなかには、おもしろいものがある、うなぎなんかは、ほかのくにでぞだてて、イツカイニホンのみずうみにはなせば、「ニホンサン」となるらしい。ガクモンは、チテキザイサンだから、それらをユニウ

ウして、「ニホンセイ」とするわけにもいかない。だから、やはり、ジキユウリツをたかめるヒツヨウがありそうなのである。

ニジユウイチ

かつおぶしは、ニホンジンのハツメイヒンという。それをけずって、おゆのなかにいれてだしをとる。そしてそのだしをつかう。これはよくあるニホンリョウリである。

しかし、モンダイなのは、だしをとったあとのかつおぶしをどうするかである。いってみれば、かつおぶしは、からだで、だしは、あじである。タブン、そのからだには、タクサンのタンパクシツがふくまれているだろう。だしは、あじだけだろう。だから、そのからだをすててはもつたいたないだろう。それは、ロウヒのようなきがする。うまく、だしをとったあとのかつおぶしをつかえればとおもう。

ニジユウニ

エル（ウンドウ）イコール ジー（ジュウリヨク）とかいた（●『ウ』よんジュウゴ）。また、エルイコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリヨウ）でもある（●『ウ』ヒャクニジュウハチ）ということは、ジーイコール ダブリュエー わる ダブリュとなる。

ようするに、あたたかいほど、ジュウリヨクがつよいわけである。これで、なぜ、コウセイに、ジュウリヨクがあるかセツメイできるであろう。チキユウも、なかがもえているから、おなじリユウだ。つきのジュウリヨクがチキユウとくらべてちいさいというが、それはなかのオンドがひくいから、シツリヨウがおおきいのである。これらのふたつのスウチをはかれば、みつつのスウチがだせるだろう。

ニジュウサン

エス（ソクド）イコール デイ（みちのり） わる テイ（ジカン）である。テイ（ジカン）イコール エル（ウンドウ）である（●ホンシヨ「イカ、ムヒョウキ」キユウ、『ウ』よんジュウ、『よ』サンジュウニ）。エルイコール ダブリュエー（あたたかさ） わる ダブリュ（シツリヨウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウハチ）。これをセイリすると、エスイコール デイ わる ダブリュエー わ

るダブリユとなる。

これでなにが出来るかといえ、あたたかさがひくいほど、ソクドがおおきくなる。もしくは、ソクドがおおきいほど、あたたかさは、ひくいということである。イッパンテキにはひかりが、イチバンはよいとされるが、もつとひやせれば、ソクドはあがられるかもしれない。

ニジュウよん

ミンシュシユギは、オウベイやニホンではいいものとされている。しかし、これが、シユウグセイジにかわるといふシテキもある。それはカンタンである。だれもがリエキをもとめて、ミンシュシユギをやればそうなる。ゲンゼイをうたえば、フツウのひとのリエキになる。だから、ヒョウがあつまつて、そのギインたちがトウセンし、ジツサイにゲンゼイして、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。キュウリヨウのガクをあげるといえば、やっぱり、フツウのひとがもうかり、ギインたちももうかる。

しかし、やがてセイフやケイザイがヒヘイする。だから、リエキをおもじるミンシュセイ

ジでは、だめなのだろう。

ニジユウゴ

そとをあるけば、タクサンのくるまがはしっているのにきづく（●『ウ』ロクジュウ）。わたしは、ニホンのケイザイトウケイをみると、なぜ、そんなにくるまがはしっているかギモンがわく。わたしのおやじは、カイガイでキンムしたことのあるカイシャインだったが、シヨウガイ、くるまはかわなかった。いや、チュウコシャをかつていた。そのおやじはのみにいくこともしなかった。かおうとおもえばかえたはずだが、それはしなかった。

ニホンのケイザイセイチヨウキをいきたひとである。そのキジュンでかんがえてみれば、タブン、いえをかうようなサラリーマンはくるまをかえないはずである。だから、ボウトウのギモンもマツトウといえるだろう。ニホンジンのシヨウヒがよわいなどというが、そもそもかえないのではないか。ケイザイセイサクによって、かえるキブンになって、くるまをかつているようなきがする。シヨウライからのシャツキンというやつである。いまのジダイは、ひとのまねしていきることは、かえってあぶないというきがする。

ニジユウロク

キユウジユウネンダイから、ニホンでは、コンピュータをつかえるひとがよくなった。それは、また、コンピユーターカンレンのしごとをするひとがかせぐようになったということもある。コンゴは、エーアイだの、ロボットなどといわれる。だから、エーアイやロボットカンレンのしごとをするひとが、かせぐだろうとヨソクできる。

だから、そのためのキョウウイクをしたらどうかとおもうが、どうもそんなはなしはないよ。うだ。せいぜい、コンピユーターのプログラムのガクシユウである。それではニジユウネンイジョウおおわれている。そのこたちがおおきくなり、ケツカがでるころには、よんジユウネンテイドおくれることになる。それでいいのだろうか。

いまから、エーアイのガクシユウをはじめても、ケツカがでるまで、ジユウゴネンとかかかる。エーアイをつかえるジンザイ、つくるジンザイ、にかてるジンザイはヒツヨウであるうが、まだそういうはなしはきかない。あまりさきことは、かんがえていないのかもしれない。

ニジュウシチ

ダイガクにいくのがいいとおもわれているふしがある。たしかにダイガクにいけば、チシキのリヨウはふえるだろう。しかし、それは、キホンテキに、だれかがかんがえたことなので、たとえれば、あつかうことのできるブヒンがふえたにすぎない。

そうやって、あつかうことのできるブヒンをふやすこともいいが、やっぱり、ジブンでブヒンをつくるのがダイジだろう。それが、タブンいいブヒンやである。

ニジュウハチ

ジュケンキョウソウなどという。ジユクにかようこどももいるだろう。そうやって、いいダイガクをめざす。しかし、ギモンなのが、コクサイテキなヒョウカで、サンジュウイのダイガクにはいった、ソツギョウしたでいいのかということである。

ニホンで、イチバンのダイガクでもそんなかんじである。つまり、ニホンでベンキョウのヘンサチがハチジュウあるといったって、そのテイドである。それなら、ベツのことにジカ

ンをつかつたホウがよくないか。オフロードもダイジとおもうのである。

ニジユウキユウ

カイガイでは、シユウキヨウカはソクケイされるといふ。しかし、ニホンでは、あまりそういうのはなしはきかない。なぜ、シユウキヨウカがソクケイされるかという点、ドクシンで、かみにつかえるからだろう。

つまり、こういうことだ。もし、そのひとがカゾクをもっているばあい、かみのおしえと、かれのハイグウシヤのかんがえがフイツチになつたとき、どちらをとるかなやむだろう。ばあいによつては、かみのおしえをまもり、ばあいによつてはハイグウシヤのいうことをきく。

ようするに、シユウキヨウをとるか、カゾクをとるのかというセンタクになる。カゾクをとつたとしたら、シユウキヨウカとしてはシツカクだろう。それなら、はじめからドクシンで、かみにつけるといい。それで、ジツサイにそうしているわけだ。そのところが、ニホンでは、かならずしもであつたりするので、シユウキヨウシヤがソクケイされるといふはなしにならないのではないか。

サンジユウ

ホウテイシキがある。そのヘンスウのブブンになにかスウジをいれると、なにかのあたいがケイサンできる。そのオウヨウのようなものがヨソクである。ビールのうりあげでもなんでもいい。かぎとなるヘンスウをニュウリヨクして、うりあげをヨソクする。そのヨソクがただしいとすると、そのつぎのヨソクもカノウウとなる。それをくりかえしていくと、ミライがわかるわけである。

そのように、ミライをコテイしたいから、キセイのようなコウドウがおこなわれるともいえる。ザンギヨウキセイなどのキセイである。それをやると、ミライがよめるが、そのブン、ジユウドがなくなる。つまり、おおあたりも、おおはずれもしないわけである。だから、ジユウをもとめるひとは、キセイをきらう。ちいさいセイフのがいいというわけである。「ちいさなセイフ」とは、サイキンあまりきかないから、さきがケツコウよめているんだとおもう。

サンジユウイチ

キンユウカンワというジケンがあった。ようするに、シヘイを、インサツキをつかってふやしたのである。これをやると、ツウカのカチがさがって、ブツカがあがるのがキタイされる。そうやって、すこしのブツカジョウシヨウをねらったわけだ。

しかし、やりすぎるとどうなるか。ツウカをニバイにふやせば、タンジュンにブツカはニバイになるし、サンバイにふやせば、ブツカはサンバイになる。そんなことがおこなわれていたわけだ。

しかし、いまはみえない。コジンキンユウシサンが、そのナンバイもあるというリユウがある。しかし、いつかはそれがヒヨウメンカする。いずれ、セイフフサイが、コジンキンユウシサンをおいこすからだ。サンバイのインフレになったら、かなりくらしづらだろう。こめがゴキロで、ななセンエンというはなしである。そういうキョウフセイサクをセイフがしないように、みはっていなければならない。

サンジュウニ

わかいころは、よのなかのうらジジョウがわからなかつたりする。わたしもなんとなく、

コウコウへいって、ダイガクへいくものだとおもっていた。いとこがどこのダイガクにいったときかされたものだ。わたしのおやじはチュウシヨウキギヨウのサラリーマンだったが、まあ、そんなかんじだった。そして、ベンキョウのヘンサチをあげれば、いいダイガクにいくというしくみをリカイした。

しかし、ジブンでおかねをはらって、ダイガクにいつてみると、それは、ひとつのみかたにすぎないとわかる。なにより、コウコウにいくのにも、おかねがかかるし、ダイガクに行くにもおかねがかかる。だから、いまかんがえると、ジユケンキョウソウなんていうのは、かねをもっているひとはなしで、かねをもっていないソウは、はたらくか、はたらきながら、ガツコウへいくことになる。だから、かねがなさそうなら、ベンキョウなどせずに、アルバイトをしておかねをためるといいだろう。

ジユクにいつてもおかねがかかるだけだ。また、アルバイトキンシのガツコウへいつてもいけない。コウコウセイのときに、ニヒヤクマンエンでもためれば、ダイガクなり、センモンガツコウにいきながら、アルバイトでガクヒをはらえるだろう。いまは、それがまっとうないきかただとおもう。

サンジユウサン

ひかりは、デンキのイツシユだとかいた(●『ウ』キュウジユウ)。デンキは、イーエル(デンキ)イコールイー(エネルギー) わるダブリユ(シツリヨウ)であらわせる(イーエルイコールエル「ウンドウ」、エルイコールイーわるダブリユより。●『ウ』よんジユウゴ、『よ』サンジユウニ、『よ』ニジユウハチ)。つまり、シツリヨウがレイなら、ひからないわけである。たとえば、コウセイから、ひかりがでたとする。とどいたさきのなにかが、シツリヨウがレイなら、それはひからない。

ウチュウクウカンもそうかもしれない。ほしは、ひかっているが、クウカンはひからないだろう。つまり、ひかるのは、うけてのモンダイだということだ。わたしたちのめには、タィヨウがひかってみえるが、それは、うけてであるわたしたちのめに、シツリヨウがあるからだ。つまり、ひかりにドウチヨウカノウなわけだ。

サンジユウよん

ねつもまた、うけてのモンダイとかんがえられる。ねつは、ダブリユエー（ネツ） イコー
ル イーエル（デンキ） かける ダブリユ（シツリヨウ）である（イーエルイコールダブリ
ユエーわるダブリユより。●『ウ』ヒヤクニジュウキュウ）。だから、ネツも、シツリヨウがレイ
ならハツセイしない。また、コウセイのちかくにあつても、シツリヨウがレイなら、ネツが
ない（うつらない）となる。だから、ネツデンドウセイがたかいは、シツリヨウがおおき
なものとなる。わたしたちも、シツリヨウがあるから、ネツをかんじるといふことだ。

サンジユウゴ

ゼンセイキのゼンハンに、ロシアでキョウサンシユギカクメイがおこり、ソヴイエトレン
ボウとなつたという。よく、それについて、マルクスのいつた、シホンカによるロウドウシ
ヤからのサクシユがあつたから、それをただそうとした。というようなことをいう。

たしかに、かねもちだけがユウフクでは、ロウドウシヤはおもしろくない。わたしがかん
がえても、ゲンコウのシホンシユギは、リジュンのみとめるから、それがたまと、ダンダ
ンシジヨウがまずしくなる（●ヒヤクサンジユウゴ、『ス』ヒヤクロクジュウハチ、ヒヤクニジュウニ、『オ』ヒ

ヤクサンジュウ。それはどうかとおもう。

しかしながら、ソレンは、ハチジュウネンならずで、シュウリヨウした。なにがモンダイだったか。かねもちのおかねをロウドウシヤにブンパイしたら、「サクシユ」はカイシヨウする。そこまではいい。しかし、もうかねもちはいないのだから、もう、「サクシユ」のカイシヨウはできない。つまり、イツカイそのセイドをドウニユウするのはいいけれど、ずっとそれでやりつづけるのは、コンナンではないかということだ。

つまり、カイカクにはユウコウであるかもしれないけれど、そのさきがない。それがアンテイセイケンではこまるということだ。ずっとカイカクをしつづけることはコンナンだったのだろう。ただ、ハチジュウネンでおわったというケツカがでた。ニホンでも、そういうセイトウは、はやらない。さきがないからである。

サンジュウロク

なにかをもやすとひかりがでる。タイヨウコウハツデンをしているらしいから、たしかに、ひかりがでているんだろう。ニクガンでもカンソクできる。このもえているものと、ひかり

はハンパツするカンケイかもしれない。

もえているものもヨウキヨク（プラス）で、ひかりもヨウキヨクということだ。ジシヤクをかんがえれば、わかりやすいだろう。そうでないと、ひかりがはなたれるリュウがよくわからない。ただ、ブラツクホールのばあいは、インキヨク（マイナス）なのだろう。だから、ひかりがあつまる。ひかりはどこへいくか。つまるところ、インキヨクのところへいくんだとおもう。

サンジユウなな

テロは、シヨウキボにおこる。それがおこなわれるリュウは、なにかへのテキタイシンな
どいろいろなりユウがあるだろう。タンジュンにいうと、ごくちいさなセンソウである。そ
れをおこしたひとは、ケイジサイパンをうけるといふより、ころされるだろう。それが、タ
クサンおこるとすると、チアンがわるいとなる。だから、ふせごうとするが、なかなかむず
かしいようだ。さいわい、ニホンでは、まだおこっていない。

それはわるいようであるが、メリットもある。どういふことかという、そのブン、おお

きなセンソウをしなくてすむわけだ。おおきなセンソウは、ヒガイもおおきいし、おかねもかかる。だから、ごくちいさなセンソウですめば、セイジカにとつて、わるいはなしではない。しかしながら、ニホンでは、そういうニンシキがすくないかのようにある。ボウエイヒをつみあげているからだ。そういうセンソウもあるんだということをおぼえておいたホウがよい。

サンジュウハチ

イシキはサイボウにあるとかいた（●『ウ』ヒヤクジュウよん、『ス』ヒヤクジュウよん、キュウジュウよん、キュウジュウサン、キュウジュウイチ、ハチジュウロク、よんジュウサン）。タンサイボウセイブツでもいきられるからである。

サイボウといえは、タンパクシツをフクセイするキノウがそなわっている。イデンケイである。イデンシは、カガクブツシツのあつまりだが、それにイミがあるとされる。それによつて、コタイのケイシツやキノウにサがでるからである。つまり、イデンケイはジョウホウをあつかっているといえる。ジョウホウというより、グタイテキなブツシツなのだが。

そうならば、カンジヨウのようなジョウホウをあつかってもおかしくないだろう。やっぱり、ものをあつかうかもしれない。おこったときには、あるブツシツをゴウセイするようなのである。そうすると、ノウよりサイボウなのかもしれない。しかし、ノウがおおきなウンドウをうけもっているから、ニンゲンはうごけるともいえる。どちらもダイジであろう。

サンジユウキユウ

エイゴで、「わたしは、マルマルをシンコウしています。」ということをして、「アイビリーブインマルマル。」という。ここでのマルマルには、「カミ」というタンゴがはいるわけだが、このブンをみると、どういうセカイカンかわかる。それは、「カミ」のなかに、「ビリーブ」があるということだ。つまり、わたしたちのイシキは、「カミ」のなかにある。というセカイカ
ンだ。

ニホンで、そういうセカイカンをもっているひとが、どれくらいいるかわからないが、どちらかといえば、「カミ」が「ある。(いる。)」、「ない。(いない。)」といったもののようなとらえかたをするのではないか。もしそうだとすると、「アイビリーブ マルマルアウト オブ

ミー。」となるだろう。それだと、かなりセカイカンはちがうだろう。

また、ニホンでは、「カミ」がおおいから、ジブンのガイメンにテイイさせるとおもわれる。ある「カミ」は、「エー」といい、また、ベツの「カミ」は、「ビー」といったとする。そうすると、そこにトウイツテキなケンカイをもつことは、むずかしくなる。だから、タンジュンに、ある「カミ」は、「シー」といった。と、そのままリバーブ（エコー）するサホウが、もっともエネルギーをつかわないから、ダイタスウにサイヨウされそうだ。

そういうサホウをレンゾクすると、「だれが、『バツバツ』といった。」などと、デンブンケイのコミュニケーションをとるタイドとなるだろう。だから、ニホンジンは、カガクをしづらいといえる。だれかのいったことを、そのままにするからである。

イッポウ、オウベイでは、かれらが、「カミ」のなかにいるわけだから、「カミ」をさがそうとするかもしれない。「カミ」とはなにかとどうかもしれない。だから、はじめはシンガクでも、シゼンカガクへとハツテンするわけである。おおくのニホンジンなら、あの「カミ」がそういつていたから、そういうことにしておこうとなるだろう。そこが、ギジュツリヨクのサになるとおもおう。

よんジュウ

いまは、ホウリツのアンをコツカイギインがギロンするが、コンピューターネットワークをつかって、コクミンにやらせたらどうか。ホウアンのハツギも、タシヨウのコツカイギインがやってもいいが、コクミンからハツギするわけだ。ようするに、コジンがアップロードして、ギロンするのである。

サイケツのばあいは、サンセイかハンタイをデンシコクミントウヒョウすればいい。イーメールで、マルガツバツニチのゴジまでにトウヒョウしてください。とやればいいわけだ。ギロンヨウのケイジバンのようなしくみもヒツヨウだろう。これらをひるまにやると（ひるまにやってもいいが）、フツウのロウドウシヤはおきざりになってしまふので、ゴゴシチジイコウなどに、ギロンするわけである。

ムリにギロンしなくてもいいが、テキトウにサイケツして、ホウアンなどをきめる。テレビなんかをみているより、このホウが、シヤカイのことをかんがえるので、まともであろう。ニジカンくらいでもいい。これなら、かつてはあったといわれる、チヨクセツミンシユセイができる。ケイヒもやすくあがるのではないか。

よんジュウイチ

ジブンでしたしごとは、ジブンのシサンになる。だれかにたのまれたしごとや、カイシャのしごとは、ジブンのシサンにはならない。ただ、かわりにおかねをもらえる。だから、カイシャをはなれてしまったロウドウシヤは、シサンがなくなってしまう。

それだと、あたらしくなにかをやるのもタイヘンだから、てあついコヨウでまもる。しかし、それもあやしくなってきた。ほかのひとに、ジブンのシサンをサユウされたくないのなら、ジブンでしごとをすればよい。しつかりやれば、ドンドンシサンがふえるであろう。パソコンのソフトウエアのように、コピーをうれば、もとではへらない。

よんジュウニ

イーエル(デンキ) イコール(ダブリユエー(あたたかさ) わる(ダブリユ(シツリヨウ)である(●『ウ』ヒャクニジュウキュウ)。このうちみえるのは、ダブリユであろう。チャワンがそこにあればみえる。これは、ひかりがあるためである。ひかりがなければ、シツリヨウはカ

ンサツできない。まわりがひかっているか、そのチャワンがひかっているか（●サン）は、さ
ておき、ひかっているか（めにみえれば）、シツリヨウは、カンサツカノウだ（ただ、ケイサ
ンではかることはカノウである）。だから、そのひかりをシツリヨウとカテイする。

そうすると、イーエル イコール ダブリュエー わる エルアイ（ひかり）である。とはい
っても、ものはものというかんがえかたがつよいので、イーエル イコール ダブリュエー わ
る エム（モノ）や、イーエル イコール ダブリュエー わる カッコ エム たす エルアイカ
ッコなどとしたホウがいいかもしれない。

しかし、デンキというゲンショウメンでは、ひかりといってしまってもよいのではないか。
しかし、モンダイもある。それは、タイヨウのデンキリヨウ（ダブリュエー わる エルアイ）
と、ライターでつけたひのデンキリヨウが、ヒリツがおなじだとすると、おなじかずになっ
てしまう。つまり、どちらも、「イチ」のカノウセイがある。そうすると、タブン、ジツサイ
テキなハツデンリヨウは、タイヨウのホウがおおきいはずだ。それをどうかんがえるかとい
うモンダイがある。

それを、おおきいデンキ「イーエル エル」とちいさいデンキ「イーエル エス」とわけて
かんがえれば、カイケツする。しかし、それなら、デンキのダイショウについてのギロンが

ヒツヨウであろう。タンジュンなのは、なにかのチョツケイと、たとえば、あたたかさはかかるわけである。だから、イーエルイコールダブリュアイ(チョツケイ) かけるダブリュエー わるエルアイとなるわけである。

よんジュウサン

さきのシキでは(●よんジュウ三)、イーエル(デンキ) イコールダブリュエー(あたたかさ) わるダブリュ(シツリヨウ)のウヘンのダブリュを、エルアイ(ひかり) わるダブリュアイ(チョツケイ)にさしかえた。このシキがただしいとすると、ダブリュイコールエルアイ わるダブリュアイだ。

つまり、ひかりがレイだとすると、シツリヨウもレイになる。また、ダブリュアイがレイでも、ダブリュはレイになる。どういふことかという、ひかりがないところには、なにもないということだ。「ブラックホール」が、ひかりをすいこんでいるなら、それは、シツリヨウがあるということになる。だから、それがなにかをすいこんだとしたら、ひかりがあるはずである。だから、なにかがたまっていけば、またもえるか、インセキのようになるだろう。

また、おおきさのないもののシツリヨウはレイということである。だから、あるものをちいさくするようなアツリヨクをかければ、それは、とてつもなくテイオンになるだけで、なくなりほしくない。ギャクに、ひろげれば（オンドをたかくすれば）、どこまでもコウオンになる。だから、ウチュウは、ビッグバンでこわれてしまうというより、オンドがあたりつづけるかぎり、ひろがるだろう。シキをいじると、ダブリュアイイコールエルアイわるダブリュだから、ひかりがおおきくなるほど、ウチュウはひろがることになる。シツリヨウとひかりのおおきさがケイサンできれば、ウチュウのおおきさではかれるであろう。

よんジュウよん

イーエル（デンキ）イコールダブリュエー（あたたかさ）わるダブリュ（シツリヨウ）である（●『ウ』ヒャクニジュウキュウ）。これをいじると、ダブリュかけるイーエルイコールダブリュエーになる。つまり、あたたかさとは、シツリヨウとデンキによることになる。シツリヨウを、さきのケイサンシキをつかつて、ダブリュイコールエルアイ（ひかり）わるダブリュアイ（チョツケイ）（●よんジュウニ）のチョツケイを、アツリヨクをかけ、ちいさくし

てやれば、シツリヨウがおおきくなる。そうすると、さきのシキでは、ギャクにあたたかくなる。これはなぜだろう。

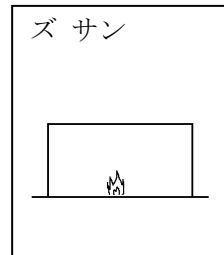
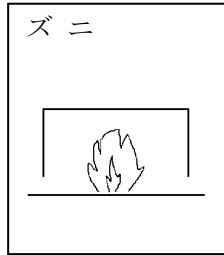
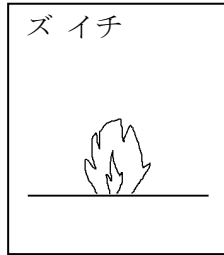
タブン、アツリヨクをかけたでどころのものも、ケイサンシキにはいつてしまうからだとおもわれる。だから、そのもののオンドはひくくなつても、アツリヨクをかけたもとは、オンドがあがる。そういうことだとおもう。だから、ものにアツリヨクをかけて、あたたかさをさげようとおもつても、ケツカテキには、よりあたたかくなつてしまうことがかんがえられる。うまく、ひかりやデンキをおさえられればいいが、そういうむずかしいメンはあるとおもう。

よんジュウゴ

ダブリユ（シツリヨウ） イコール エルアイ（ひかり） わるダブリユアイ（おおきさ） である（●よんジュウゴ）。また、ダブリユかけるイーエル（デンキ） イコール ダブリユエー（あたたかさ） である（●サンジュウよん）。

ものにアツリヨクをかけて、ダブリユアイをへらしたとする。そうすれば、あたたかさが

へるはずだが、ほかのヨウソもかわらないと、あたたかさはちいさくならない（●よんジュウよん）。ということは、このようにソウサしようとするばあいには、エルアイかイーエルをへんカさせるヒツヨウがある。そのイーエルのはなしである。ギャクに、あるもののオンドをたかめようとすれば、ダブリュアイにタイして、エルアイがおおきくなる。もやしてみればあいをかんがえればいい。ひかりがでるし、いくらかキタイになって、ものがおおきくなる。それをとめるのには、どうしたらいいか（ズイチ）。



みずをかけるホウホウもあるが、ひかりをシャヘイするものをかぶせればよい（ズニ、ズ

サン)。

そうすると、ダブリュアイもおおきくならないし、エルアイもおおきくならない。エルアイはでつづけるだろうが、リョウイキのгентエイがあるから、やがてひかりはリンカイにタツするだろう。そのあと、ひがよわまるかどうかは、ケイケンであるとおもうが、やがてひがよわまる(タバコなどのばあいだ)。

そうすると、エルアイがおおきく、したがってダブリュアイがおおきくなる(ダブリュアイがгентエイされているからだ。そうすると、гентエイのそとへちからはたらくとおもう。)そうすると、そのгентエイのなかにあったベツのものが、ソウタイテキにかかることになる。

だから、ひかりがリンカイにタツするようなばあいには、そのリョウイキナイにあるベツのものがうかくカノウセイがあるし、ものをとばすのがヨウイになろう。つまり、チキュウジヨウでシヨウゴをリンカイととらえれば、ゴゴのホウが、なにかをとばしたりするのが、カントンになる。とりのはね(ウモウ)も、くもりやあめのひよりも、はれのひのホウがとびやすいとなる。

よんじゅうろく

エイゴは、アルファベットをくみかえてつくられる。クール（シーオーオーエルを、クーラー（シーオーオーエルイーアール）と、ハッテンさせることができる。また、アルファベットの、サンジユウモジにもみたくない。

チュウゴクゴ（カンブン）でいうと、レイを、レイボウキと、イチモジのところを、ニモジふやして、サンモジにしなればならない。レスボンシブル オートマティック クーラー だったら、センタクテキ ジドウ レイボウキとカンジをいくつもつかう。

クールをクーラーといえるのに、すずしいからレイボウキと、タクサンのモジをあつかうことは、コウリツテキでない。コウリツテキにかんがえたら、リョウフウキやレイといえはとなる。そこどころが、カンゴとエイゴのリョウホウつかうニホンジンのカダイだろう。こうやって、かなであれば、エイゴのようにつかえるが、やっぱりブンカテキなモンダイもある。

よんじゅうなな

「レキシ」というのはなんだろうか。くちでつたえられるレキシもあるが、やはり、ホシなのだろう。キロクになれば、そのレキシはないということである。たまに、シンのシコウテイのようなレキシをほうむりさるひともいる。ベツにくになどのレキシにかぎらない。ギジュツにしたって、レキシだろう。いまは、ケッコウなことがコンピューターサーバーにキロクされている。それをこわせば、そのレキシはおわりであろう。レキシにくわしいひとも、レキシにくわしくないひともいる。ジブンでなにかしごとをしたかったら、レキシからキヨリをおくことである。テレビからも、はなれたホウがいいだろう。そして、ジブンのレキシをかくといい。

よんジュウハチ

エーアイはかしこいといっても、それは、ロンリである。つまり、ゲンゴやフゴウにならないものは、あつかえない。それにタイして、ニンゲンには、みる事ができて、ヒゲンゴジョウホウがつかえて、チョツカンがある。だから、まだニンゲンはまけないだろうとおもう。

よんジュウキユウ

ニホンはこちらから、コウレイカとインフレとのたたかいでタイヘンである。ショウライにそなえて、チヨキンをするべきというはなしもある。だから、あまりゼイタクはできない。

しかし、ニホンジンのあるテイドは、ジミントウタイシツ（●ジュウキユウ、『ア』ヒャクゴ）である。ニホンサンのたべものとガツシユウコクサンのたべものをたべるひとのことである。だから、ガツシユウコクのひとのまねをしやすい。

しかし、ガツシユウコクジンとおなじようにショウヒしたら、ダメである。たしかに、ガツシユウコクのひとに、あこがれることもあるだろう。だが、チヨキンをしなければだめだし、はたらきぶりが、ニホンジンよりいいという。だから、いまはまねてはだめなのだ。はたらきぶりをまねるのはいいだろう。

ゴジュウ

イシキは、エル（ウインドウ）である（●『ウ』ヒャクキユウジュウキユウ、『ウ』ヒャクゴジュウゴ、『ウ』

ヒヤクニジュウイチ、『ウ』ヒヤクジュウよん、『ス』よんジュウイチ)。また、イーエル(デンキ)でもある(●エルイコールイーエルより、『ウ』よんジュウゴ)。だから、そこからカンサツカノウである(いまのところはできないかもしれないが)。

デンキンゴウをみるわけである。それなら、ニンゲンには、うちはないのかとなる。しかし、プライベートなシコウもあるだろう。しりたがりなら、あるひとのイシキをしりたがるだろうが、それはメイワクであろう。しかし、そんなものだ。そうやって、うちとそとにわけると、カンサツカノウになるわけだ(キヤツカンがカノウになるから)。ホンネとたてまえというニホンジンなら、まあ、そういうのはあるう。しかし、おもてうらのないひともあるだろう。カンサツしても、しかたがないが、「イシキ」はなくてはならないといえそうだ。

ひかりがあるところにはジュウリヨクがある。シドクバン
エイゾウ

ニセンジュウキユウネンジュウニガツニジュウハチニチ
iii toga b009-s



エイチテイテイピーコロンスラツシユスラツシユアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
ーオーエム
テイエスユーエスエイチアイエヌアットマークアイアイアイテイオージーエーピリオドシ
オーエム

エイゾウのホン

『アルカカラ カンガエル』ニセンジユウゴネン

『むしのツゴウ ニンゲンのツゴウ』ニセンジユウシチネン

『よろこぶゲンシジン』ニセンジユウハチネン

『オンガイイチエンのジダイ』ニセンジユウハチネン

『スーペリアーをみつけた。』ニセンジユウキユウネン

『ウインドウはすべてエレクトリック。』ニセンジユウキユウネン

『エルガクゝひとりブツリガクのチョウセン』ニセンジユウキユウ

『ものみダイからのケイザイガク』ニセンジユウキユウネン

エイゾウのデンシサイトからコウニユウできます。

